

第1回岐阜県災害警戒会議

【日時】令和6年8月8日(木) 21:30~

【場所】5階 災害対策本部室

目的

- 情報の共有・確認
- 県の対策の確認
- 県民への呼びかけ

次第

- 1 「南海トラフ地震に関連する情報」
(巨大地震注意)の発表
- 2 南海トラフ地震の県内の被害想定
- 3 各部局の対応状況と今後の取り組み
- 4 県・市町村への指示と県民への呼びかけ

1 「南海トラフ地震に関連する情報」 (巨大地震注意)の発表

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表

南海トラフ地震の想定震源域では、**新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると考えられます**

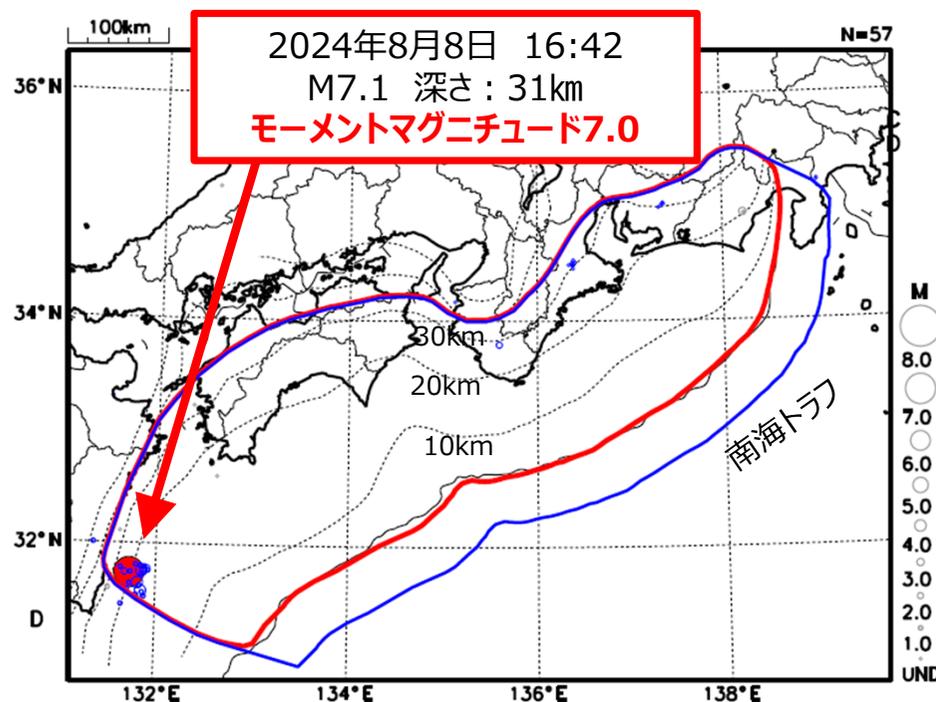
今後、もし大規模地震が発生すると、**強い揺れや高い津波を生じると考えられます**

※新たな大規模地震が発生する可能性は平常時と比べると高まっていますが、特定の期間中に大規模地震が**必ず発生することをお知らせするものではありません**

政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。

今回の地震の発生場所



- ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域
- ・黒点線は、フィリピン海プレート上面の深さ

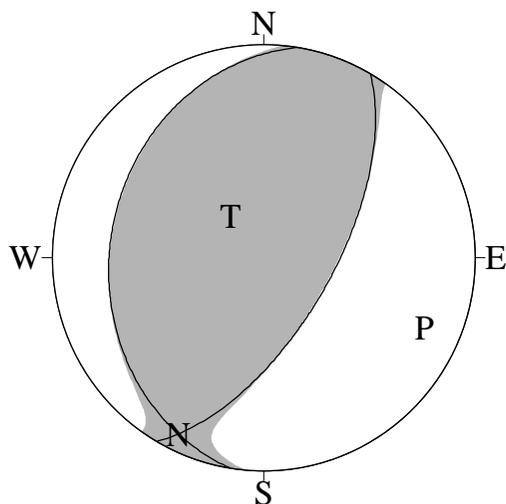
発震機構解

08081642

西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=7.0



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

北緯 31度35分

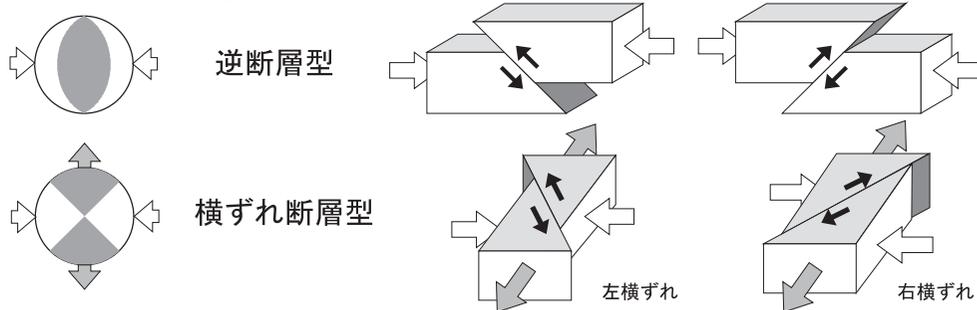
東経 131度43分

深さ 約35km

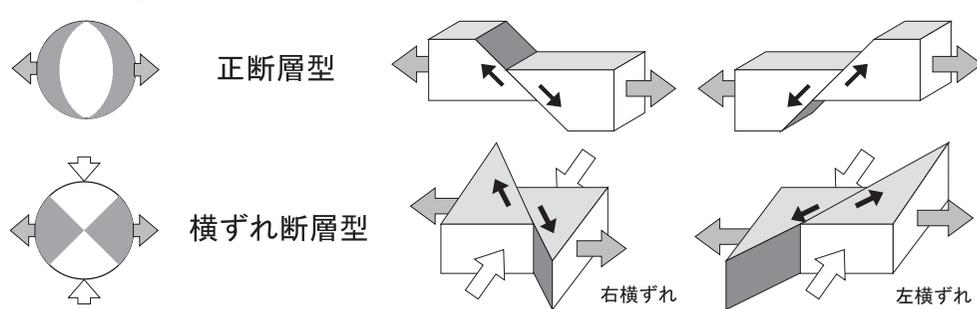
セントロイドの位置とは、地震の断層運動を1点で代表させた場合の位置。

発震機構解 [CMT解] について

圧力軸に注目した場合の例



張力軸に注目した場合の例

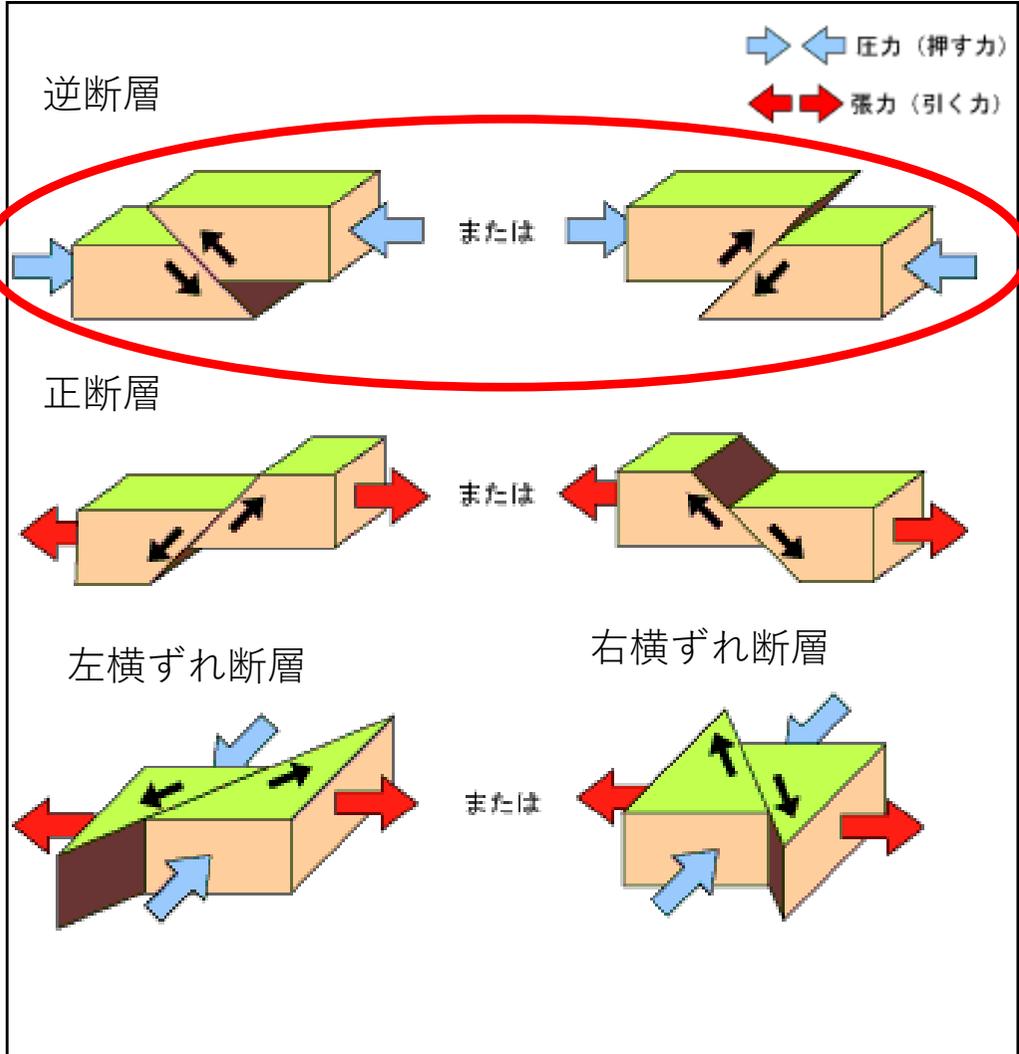
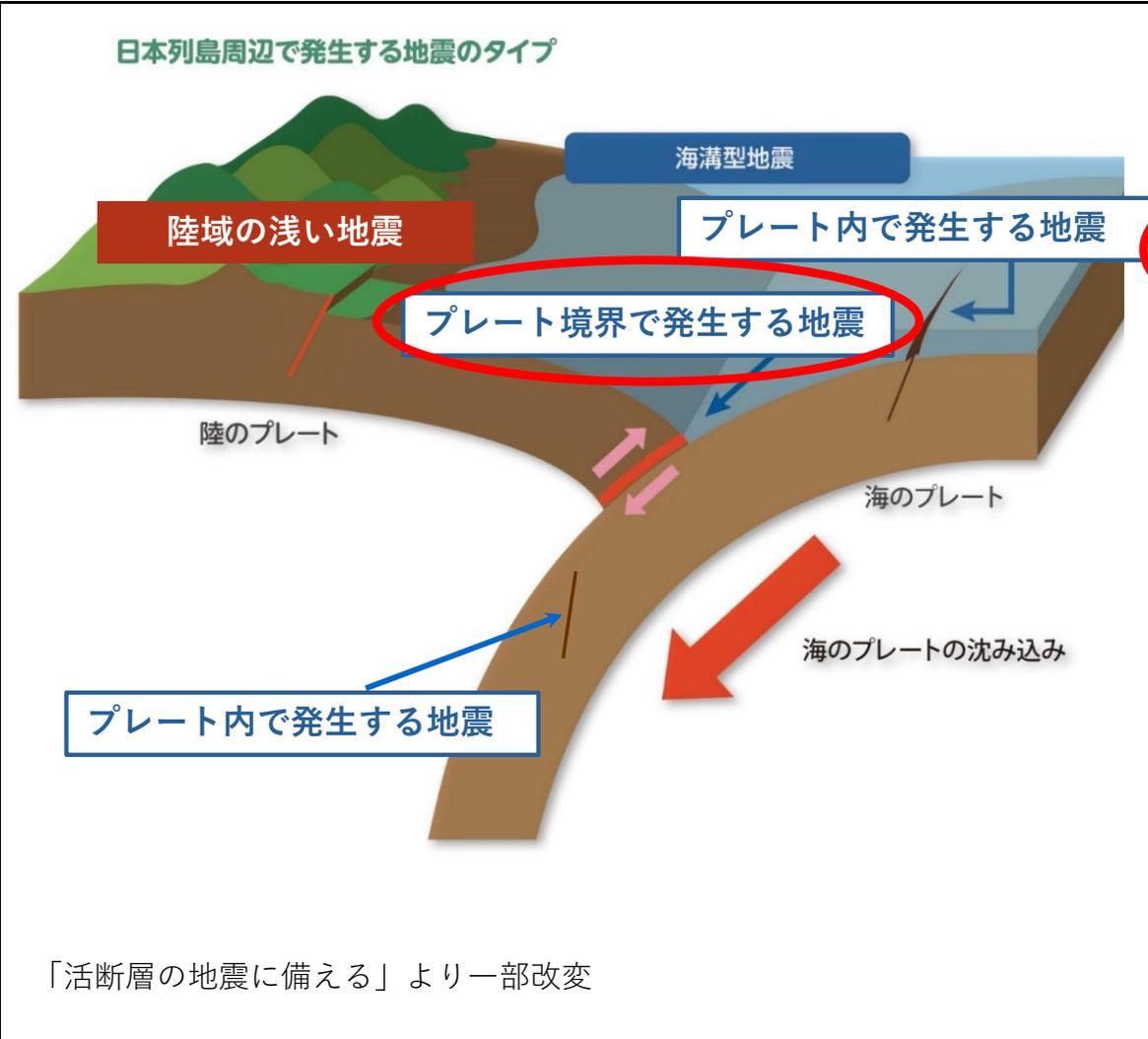


⇨ ⇩ 圧力 (押し力) ⇩ ⇨ 張力 (引く力) ⇨ ⇩ 断層がずれる方向

気象庁作成

地震の発生メカニズム

今回の地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した、逆断層型の地震



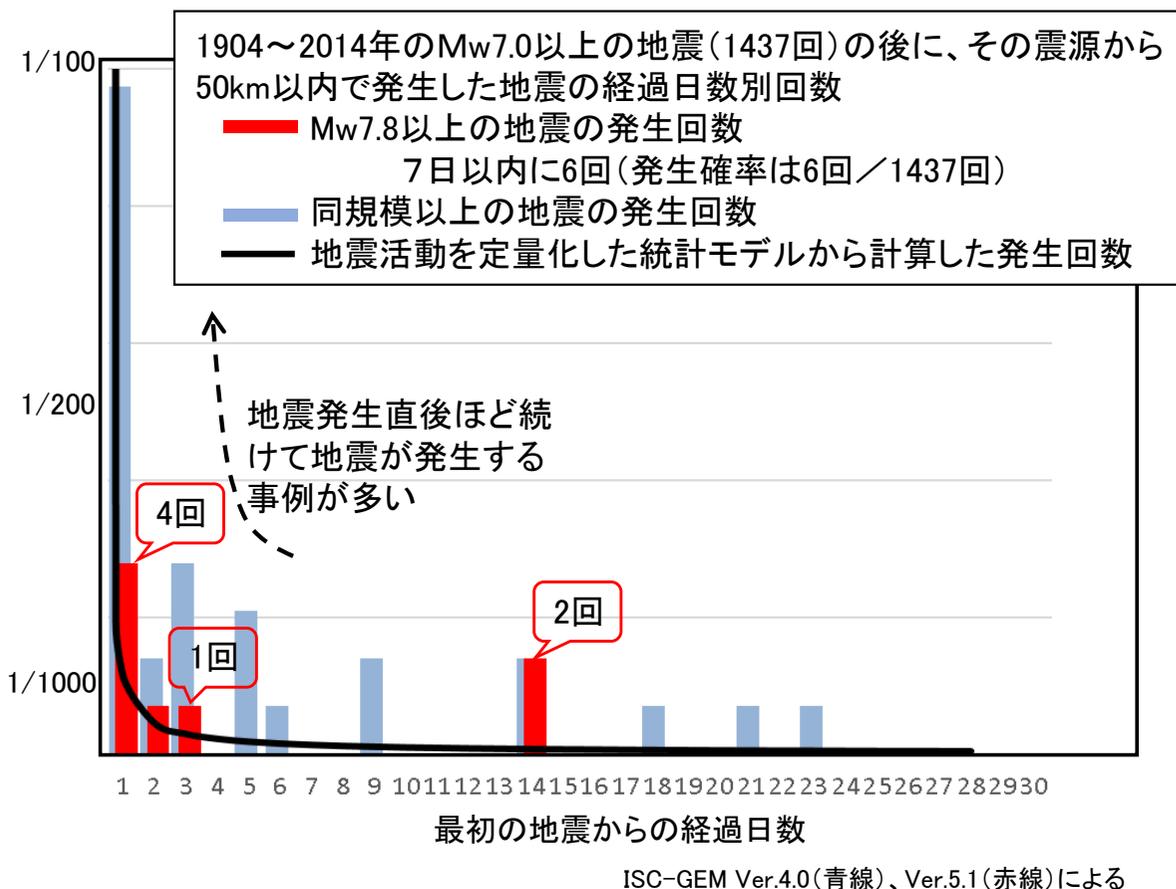
地震が続けて発生した事例

(Mw7.0以上の地震発生後にMw8クラス以上の地震が発生した世界の事例)

Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw8クラス以上(Mw7.8以上)の大規模地震が発生するのは、数百回に1回程度です。異常な現象が観測される前の状況^(注)に比べて数倍高くなっています。

(注)30年以内に70~80%の発生可能性があると考えられる状況です。南海トラフ沿いの地域において「30年以内に70~80%」の可能性でM8~9クラスの地震が発生するという確率は、7日以内に換算すると概ね千回に1回程度となります。これと、世界における続けて発生した地震の頻度を比較しています。

- 地震が続けて発生したこれらの事例から、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。
- 続けて地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。



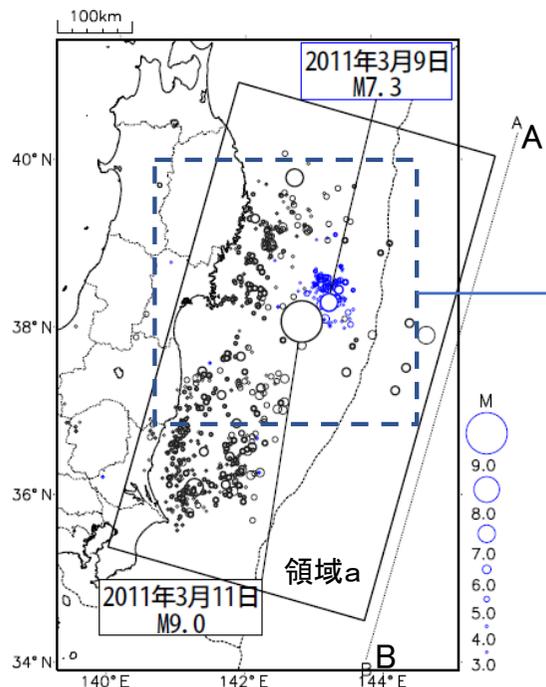
地震が続けて発生した事例

(M7.0以上の地震に引き続いて、M8クラス以上の規模の地震が発生した事例)

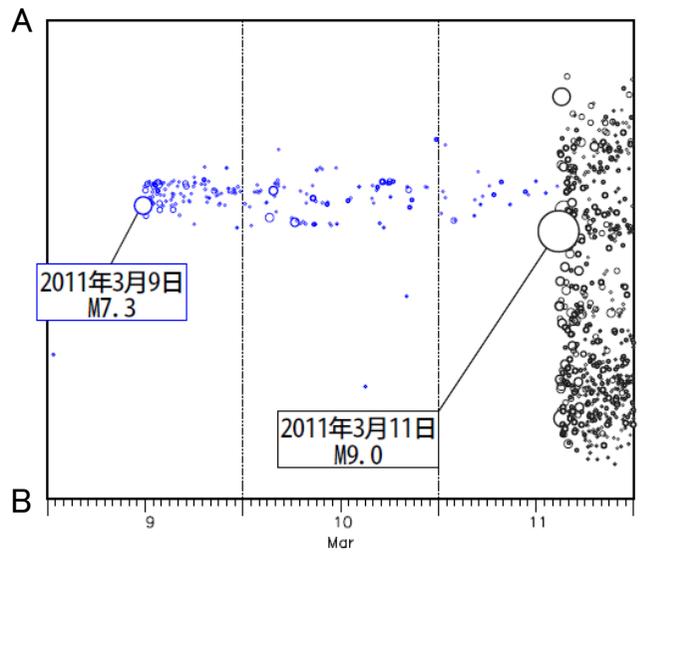
「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の例

震央分布図

(2011年3月9日～3月11日、深さ全て、M \geq 3.0)
3月11日14時46分以降の地震を黒で表示

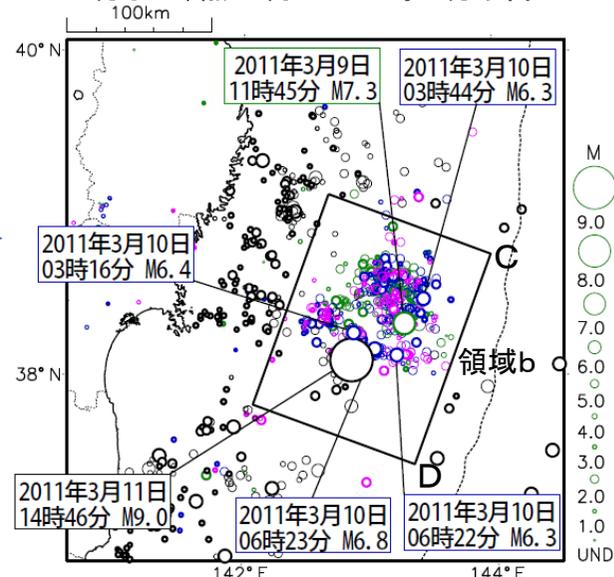


左図領域a内の時空間分布図(A-B投影)

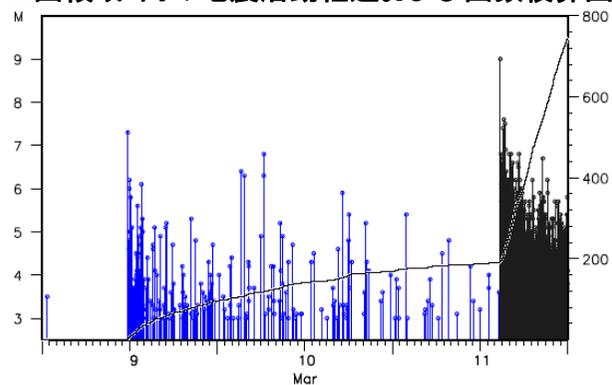


震央分布図

(2011年3月9日～3月11日、深さ全て、M全て)
緑:3月9日、青:3月10日、桃:3月11日14時45分まで、黒:3月11日14時46分以降

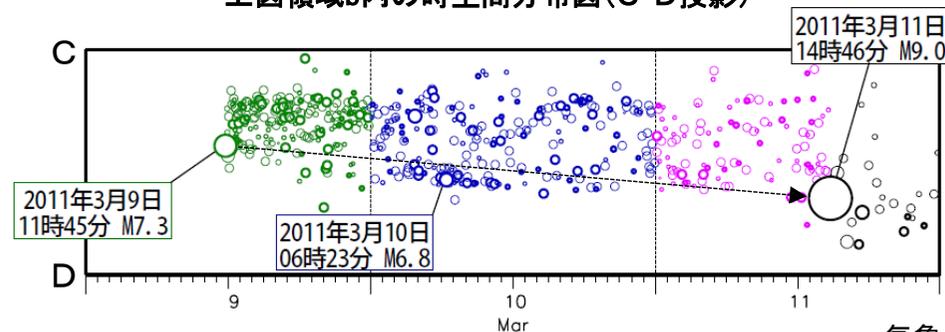


上図領域a内の地震活動経過および回数積算図



最初の地震から、その後発生したさらに規模の大きな地震の場所へ地震活動が移動しました

上図領域b内の時空間分布図(C-D投影)



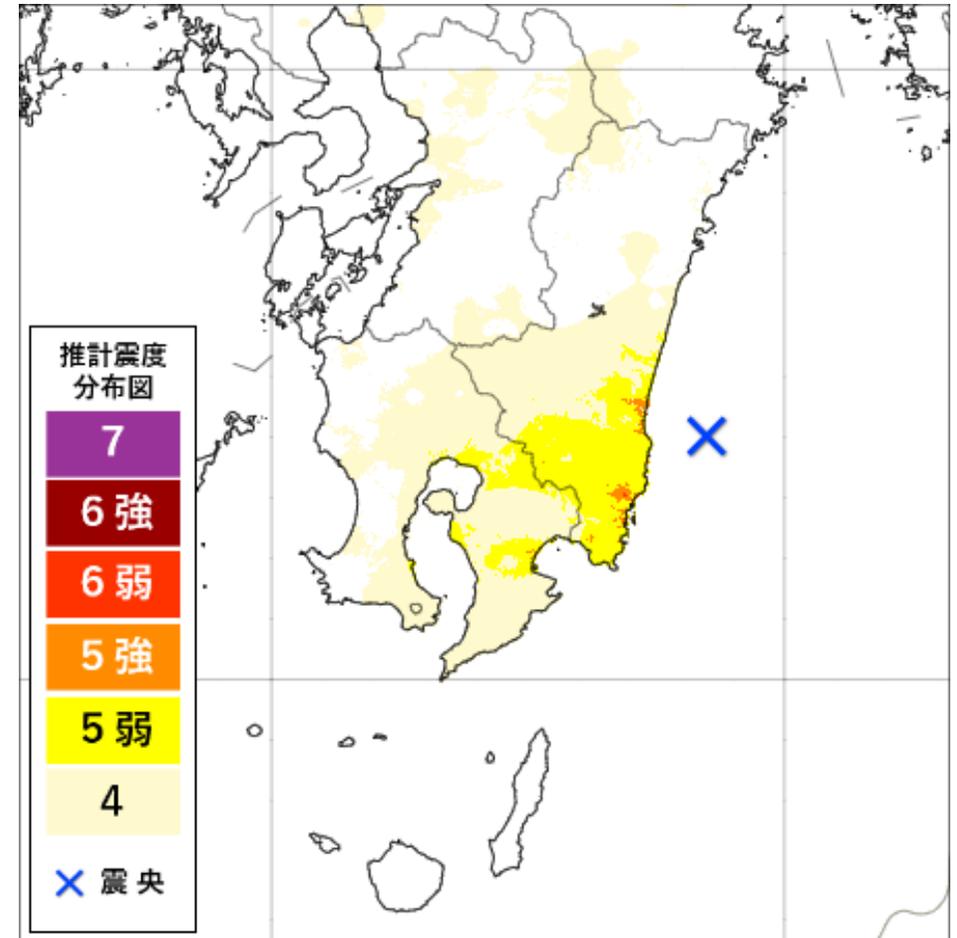
震度分布図・推計震度分布図

【各地域の震度】



8月8日16時55分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

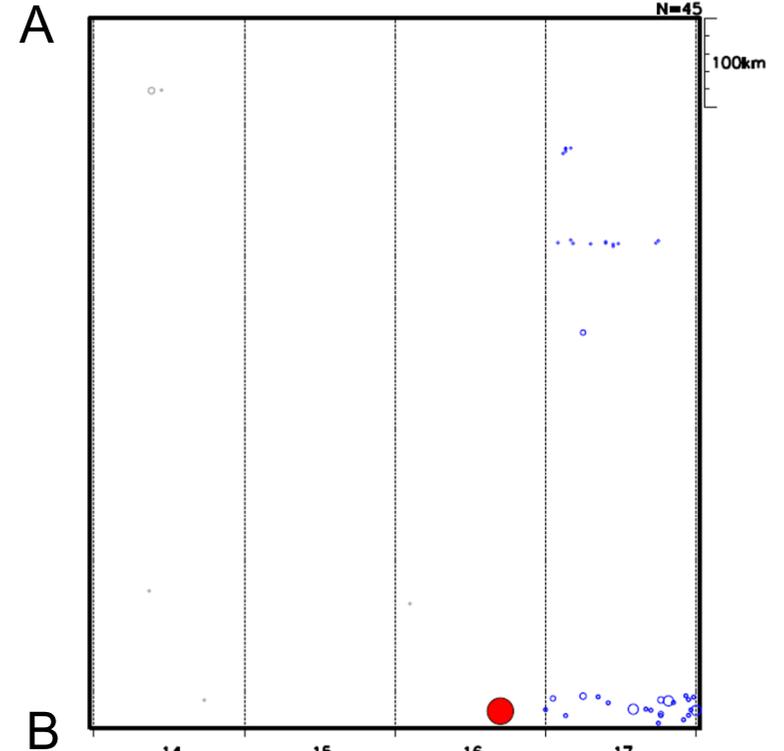
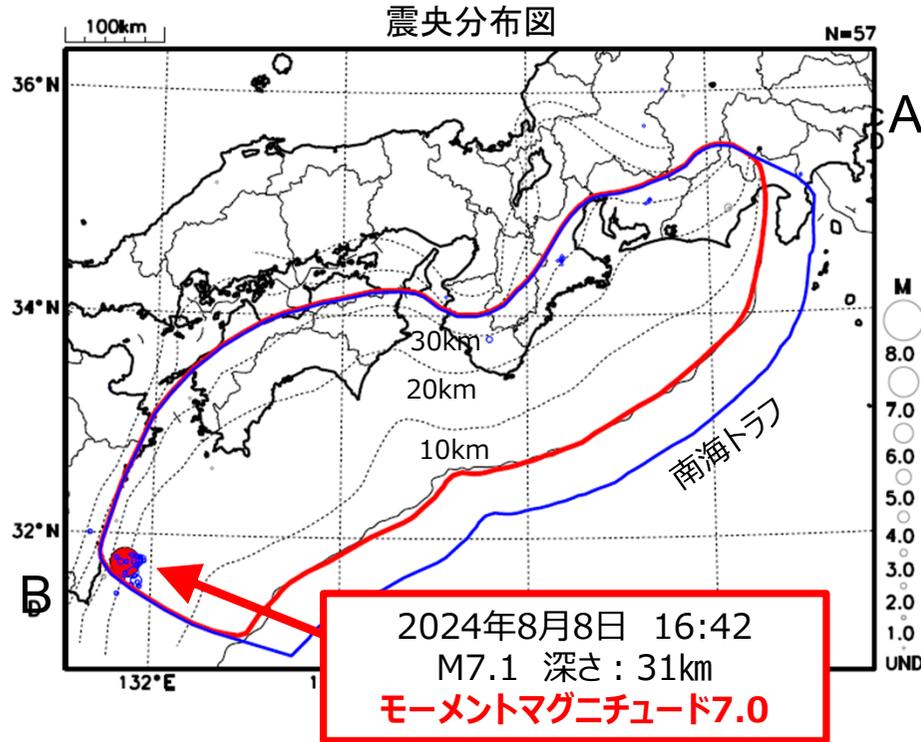
推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

今回の地震活動

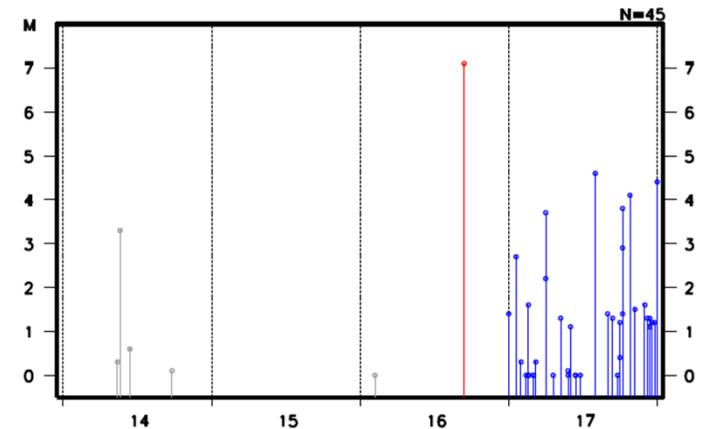
(震源の色について) 赤色: 今回の地震、青色: 今回の地震より後に発生した地震、灰色: 今回の地震より前に発生した地震

2024年08月08日14時00分～ 2024年08月08日18時00分、
深さ0～150km、M全て

監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



B 監視領域(青線)内の地震活動経過図



[図の説明]

- ・表示している震源は速報値を含みます
 - ・丸の大きさはマグニチュードの大きさを表します
 - (震央分布図)
 - ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域を示します
 - ・黒点線は、Hirose et al (2008)、Baba et al. (2002) によるフィリピン海プレート上面の深さを示します
 - (時空間分布図)
 - ・横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示します
 - ・発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示します
 - (地震活動経過図)
 - ・横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表します
- <資料の利用上の留意点>
- ・表示している震源は、速報値を含みます
 - ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります
 - ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください

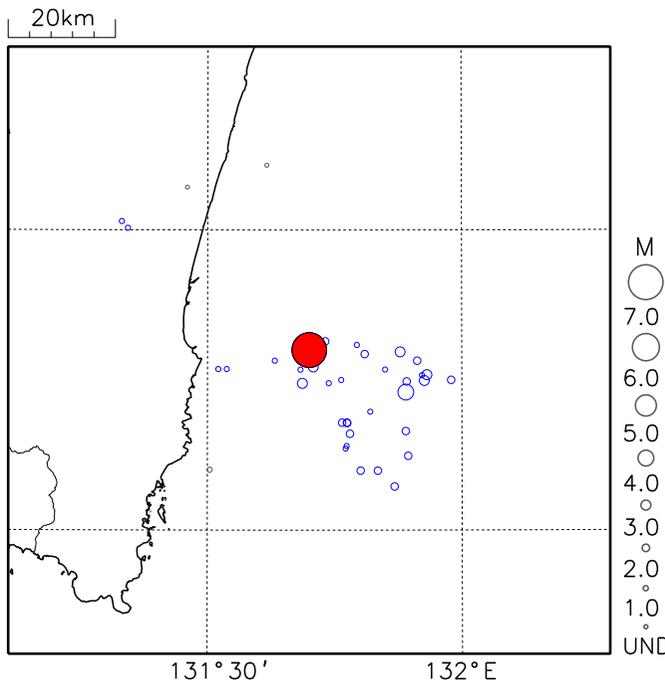
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

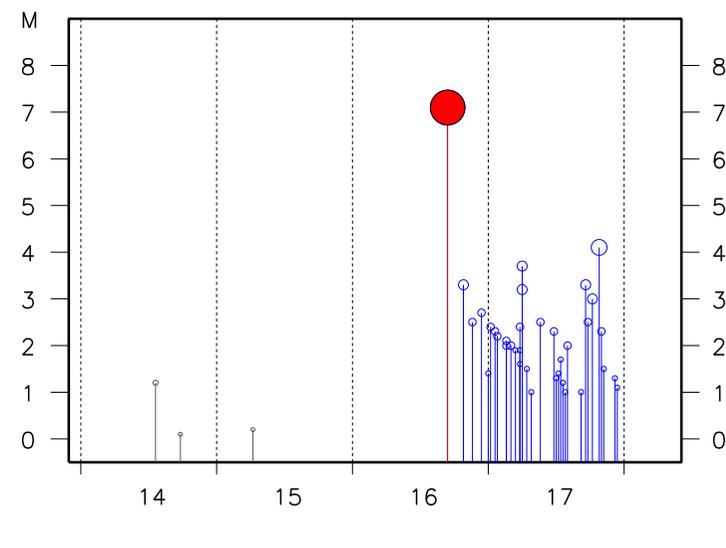
深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

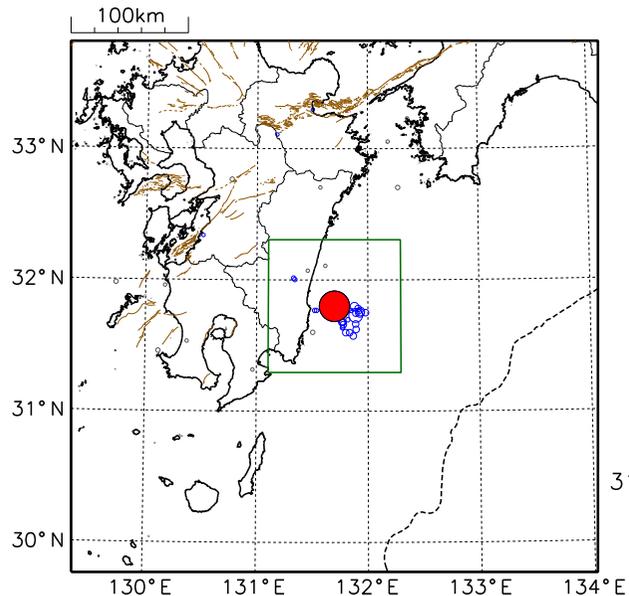
2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



震央分布図（広域図）

深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



(震源の色について)赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震 灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

<資料の利用上の留意点>

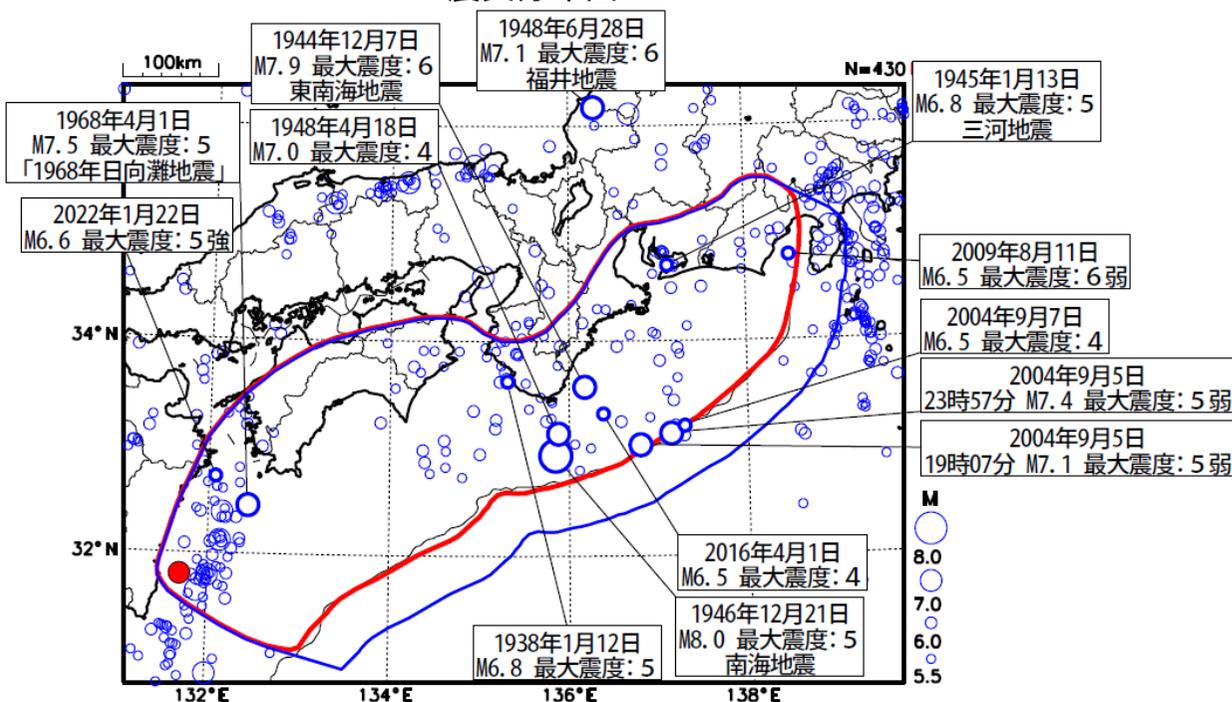
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

南海トラフ沿いの過去の地震活動（1919年以降）

1919年01月01日～2024年08月08日16時44分、
深さ0～100km、M5.5以上

震央分布図

今回の地震を赤色で示す

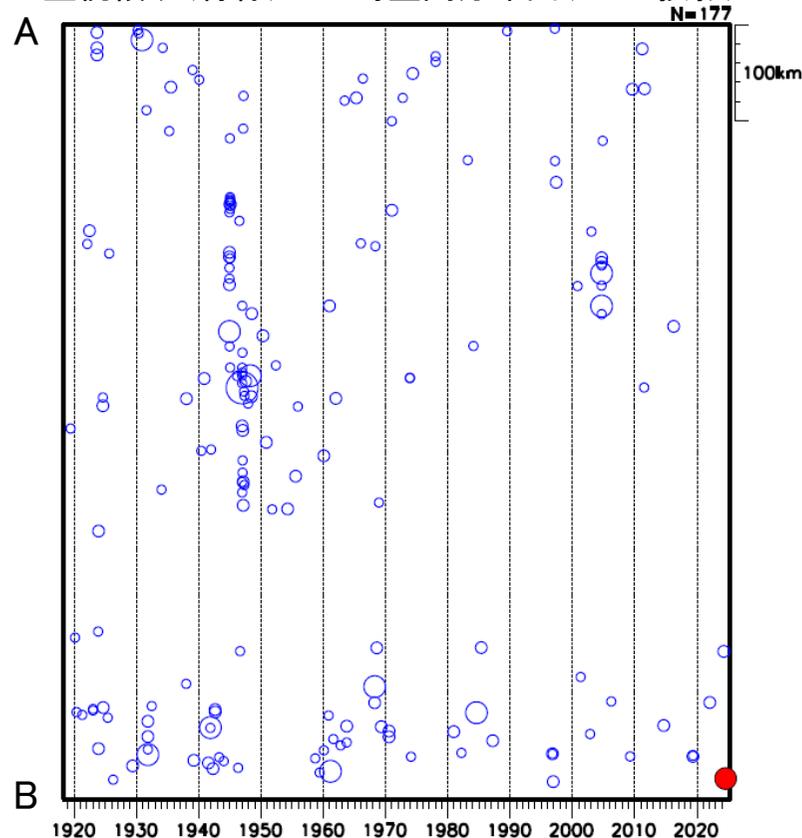


赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域

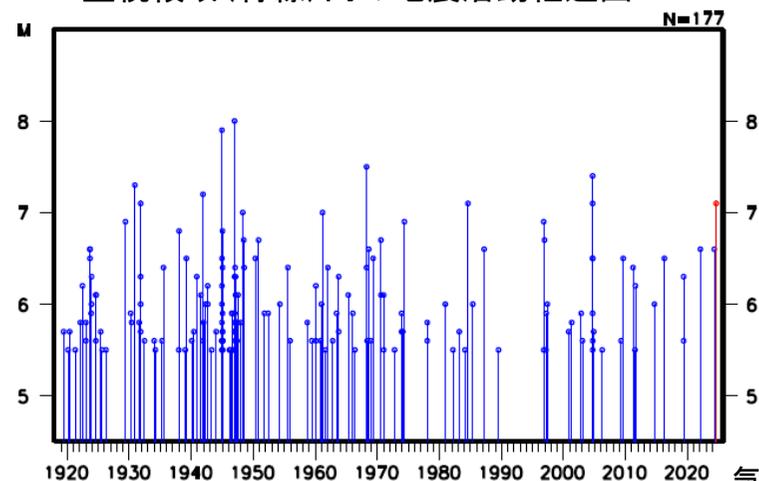
[図の説明]

- 表示している震源は速報値を含む
 - 丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す
- (震央分布図)
- 以下の地震に吹き出しを付けた
 - 1999年以前
 - 想定震源域(日向灘を除く)で発生したM6.8以上の地震
 - 想定震源域(日向灘)で発生したM7.5以上の地震
 - 図中で1946年南海地震から3年以内に発生したM7.0以上の地震
 - 2000年以前
 - 想定震源域で発生したM6.5以上の地震
- (時空間分布図)
- 横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示す
 - 発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示す
- (地震活動経過図)
- 横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す

監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



監視領域(青線)内の地震活動経過図



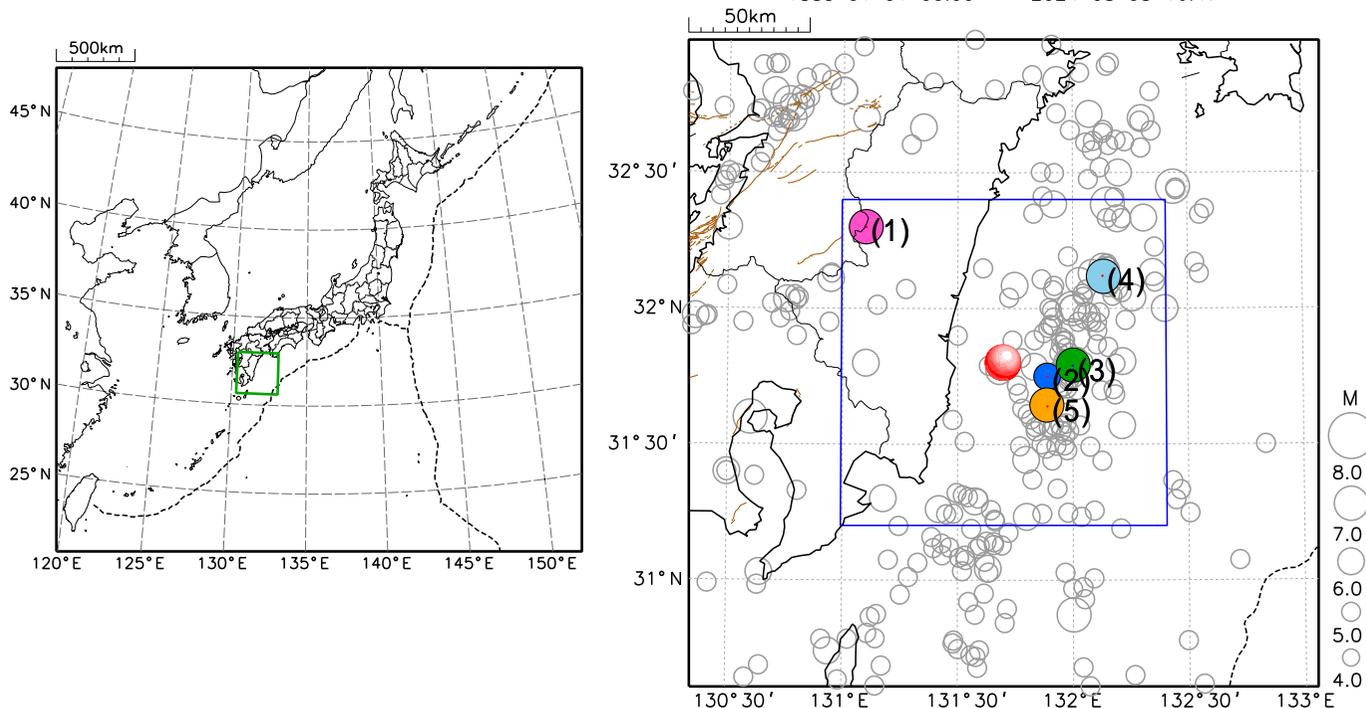
今回の地震周辺の過去の主な地震活動

震央分布図

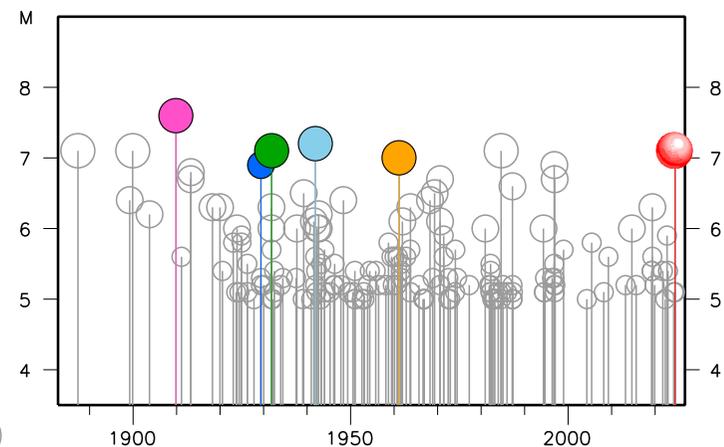
M 5.0 , 深さ : 0 ~ 150km

今回の地震を赤く表示

1885 01 01 00:00 -- 2024 08 08 16:47



震央分布図の青色矩形内のM-T図



過去の主な地震

主な地震のシンボルの色と番号の対応

桃：(1), 青：(2), 緑：(3), 水：(4), 黄：(5)

(1) 1909年11月10日 M:7.6 宮崎県北部山沿い

(2) 1929年5月22日 M:6.9 日向灘

(3) 1931年11月2日 M:7.1 日向灘

(4) 1941年11月19日 M:7.2 日向灘

(5) 1961年2月27日 M:7.0 日向灘

・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

・震央分布図中の黒色の太破線は、海溝軸を示す。

・1885年から1918年の地震の震源要素は、宇津（1982,1985）及び茅野・宇津（2001）による。

<地震の名称について>

・気象庁が定めた地震の名称を「」で示す。

・上記以外で、被害を伴い、広く社会的に地震の名称として知られているものについて、名称（「」を付加しない）を併記している。

名称は、「日本の地震活動（第2版）」（地震調査研究推進本部）による。

・地震の名称の後ろの[]は、この規模の順に近接して発生した主な地震が他にあることを示す。

名称は、最大規模の地震にのみ付加しており、[]内に記載した他の地震が異なる番号で記載される場合がある。

<資料の利用上の注意点>

・今回の地震は、速報値を表示しており、精査後に修正する場合がある。

・過去の地震活動は、M5.0以上の地震、今回の地震は、M4.0以上の地震を表示している。

・過去の地震活動は、地域、時期に依らず、全てM5.0以上の地震を表示している。地域や時期により検知能力（ ）が異なる場合がある。

検知能力：特定の地域、時期において、あるM（規模）以上の地震は、概ね全て検知できていると考えられるとする。

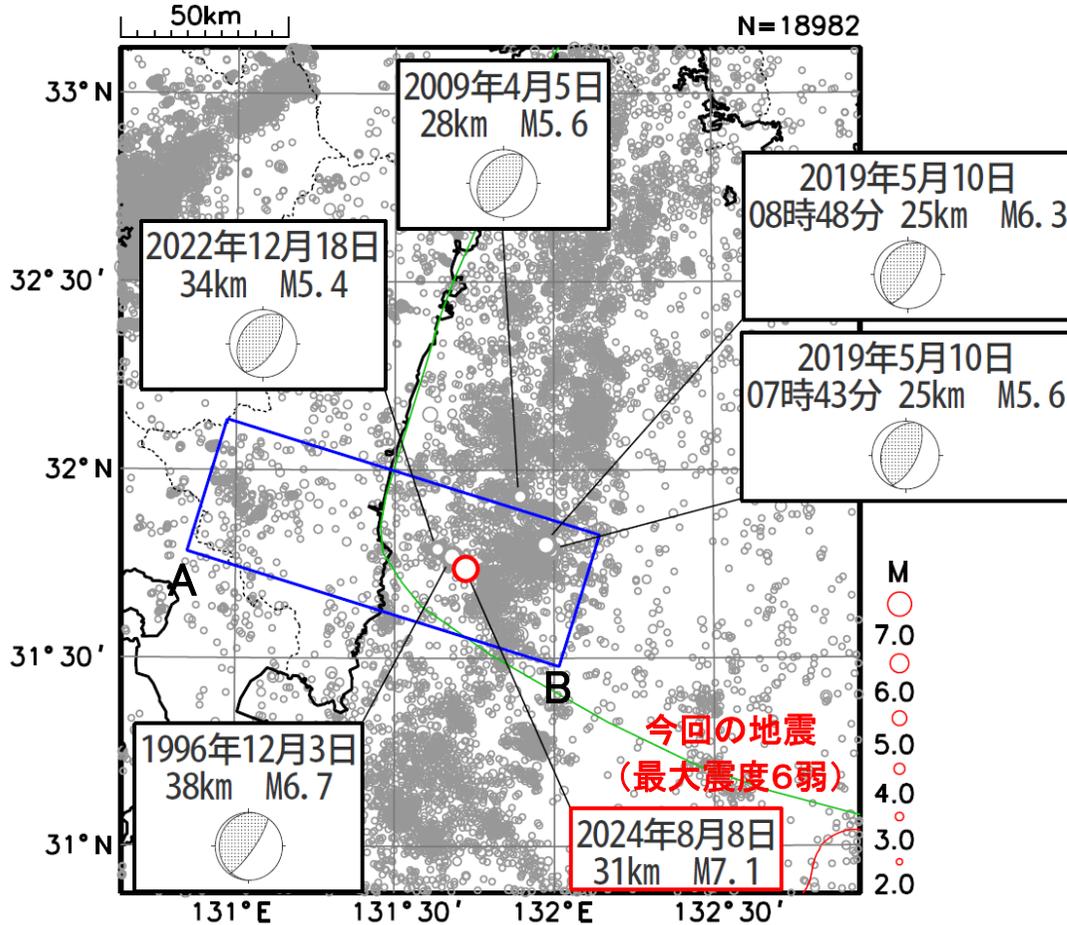
この場合、そのMが小さいほど検知能力が高いと言う。

一般的に、同時期であれば、海域より陸域の方が検知能力は高く、同一地域であれば、時期が新しいほど検知能力は高い。

令和6年8月8日 日向灘の地震 (発生場所の詳細)

震央分布図

(1994年10月1日～2024年8月8日16時44分、
深さ0～100km、M2.0以上)

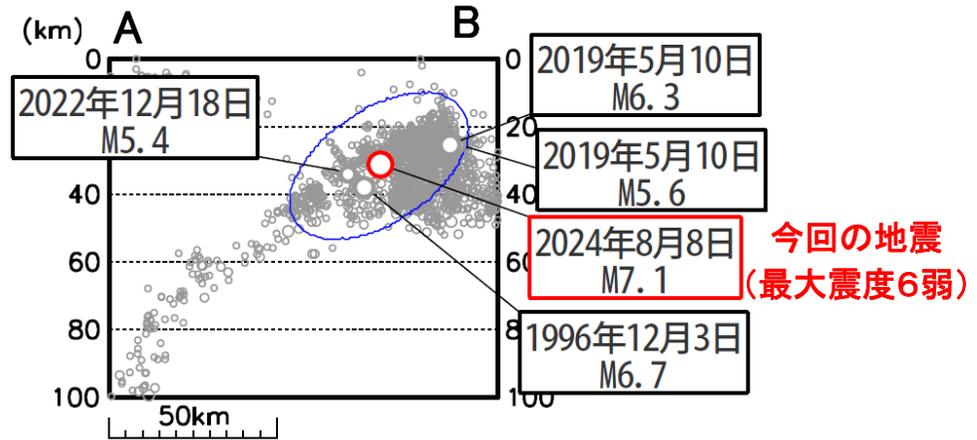


丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

2024年8月8日以降の地震を赤く表示

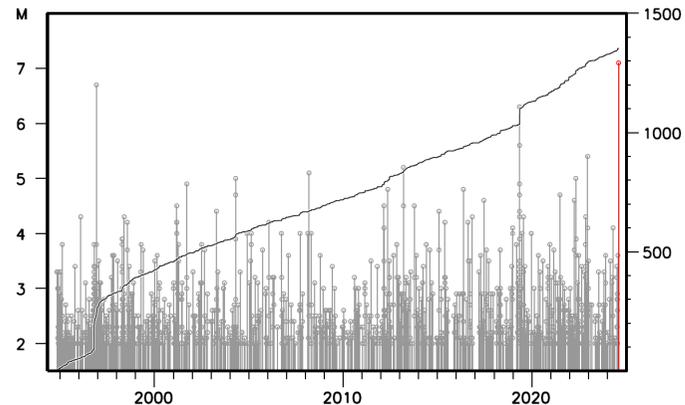
緑色実線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を表す

左図の四角形領域内のA-B断面図



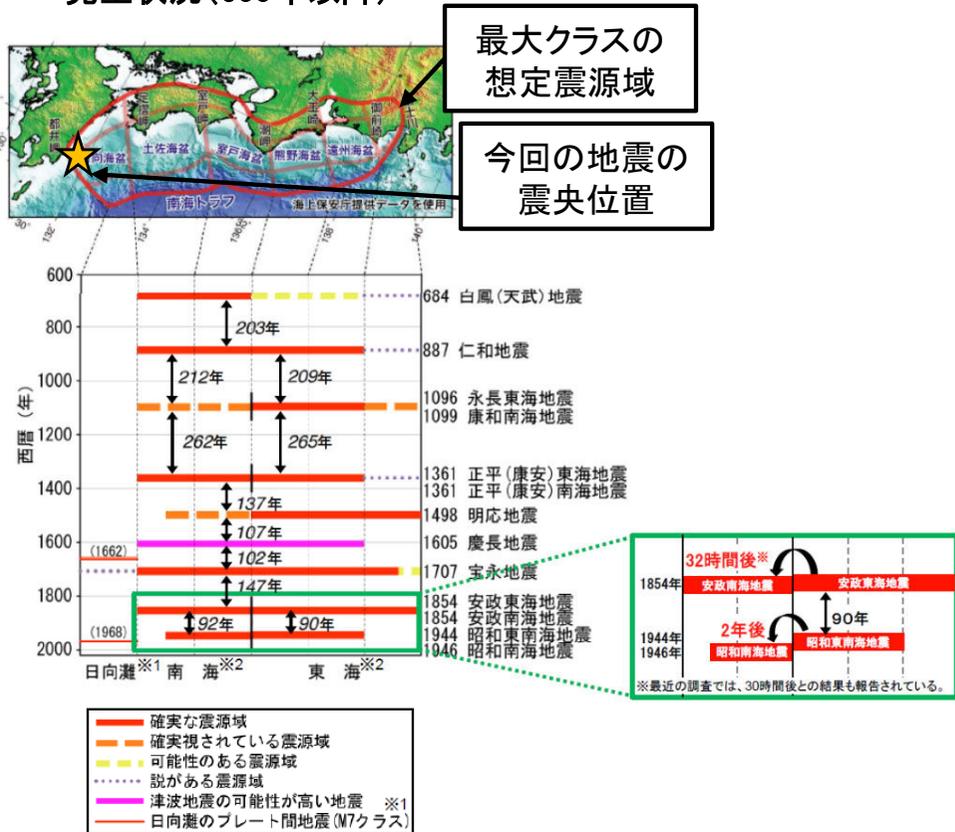
縦軸は深さを表し、丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

上図の楕円領域内の地震活動経過 および回数積算図



横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

●想定される最大規模クラスの地震の震源域・過去の発生状況(600年以降)



●海溝型地震の長期評価

領域または地震名	想定される規模	ランク※3
南海トラフ	M8~9クラス	Ⅲ * ランク

●周辺で想定されている海溝型地震

○今回の地震の震源周辺では、南海トラフで発生する大規模地震が想定されています。

●海域で発生した規模の大きな地震後に見られた地震活動の例

○過去には、2008年の茨城県沖の地震のように、大きな地震の発生後、より大きな地震が発生し、当初の活動域が広がった例もあります。しかし、2004年の釧路沖の地震のように、より大きな地震は発生せず、地震活動域が広がらなかった例もあります。

●南海トラフで発生する大規模地震

○南海トラフでは過去繰り返し大規模な地震が発生しています。正平(康安)地震(1361年)以降、南海トラフで起きた6回の大規模地震の平均発生間隔は117年です。しかし、実際に発生した地震の発生間隔は約90年から約150年とばらついています。過去には最短で約90年の間隔で大規模地震が発生した例があります。

○昭和の東南海・南海地震(1944年・1946年)の発生から約80年が経過しており、次の大規模地震発生 of 切迫性が高まっていると言えます。

●過去に南海トラフで発生した巨大地震の地震の規模

地震名称	地震本部による	内閣府による
宝永地震		8.9
安政東海地震		8.6
安政南海地震		8.7
昭和東南海地震	8.1 ~ 8.2	8.2
昭和南海地震	8.2 ~ 8.5	8.4

注)地震の規模はモーメントマグニチュード(Mw)

気象庁作成

※1「日向灘のプレート間地震(M7クラス)」として、現在知られているこの海域での最大規模の地震(『地震活動総説』(宇津, 1999)では、1662年の地震がM7.6、1968年の地震がM7.5)を記載していません。

※2 東海~南海には、現在知られている大規模地震(『地震活動総説』(宇津, 1999)では、正平(康安)東海地震以降の地震はいずれもM7.9以上)を記載しています。

※3 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%~26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表します。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部)

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/nankai_2.pdf

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部)

<https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について・別添資料」(内閣府)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai_wg/pdf/h290825betten.pdf

「防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する評価基準検討部会とりまとめ・別冊」(内閣府)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301225bessatsu_02.pdf

周辺で想定されている海溝型地震 南海トラフの巨大地震で想定される最大クラスの津波高・震度分布

(参考資料)

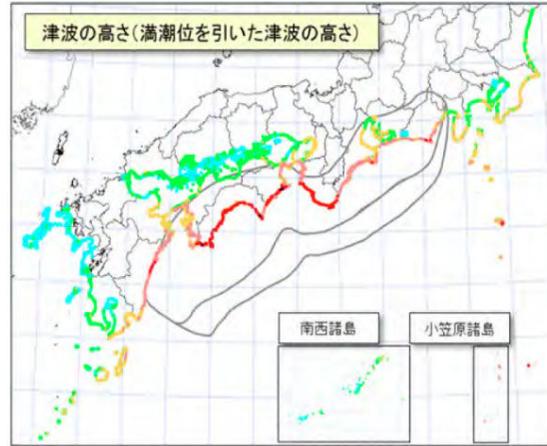
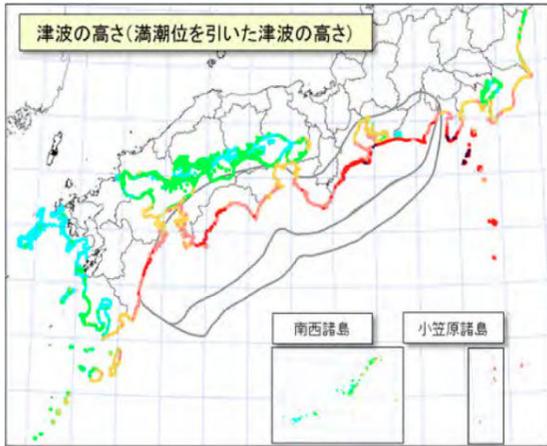
●想定される津波高（被害想定が実施された4ケースを例示）

●想定される震度分布

東海地方が大きく被災するケース

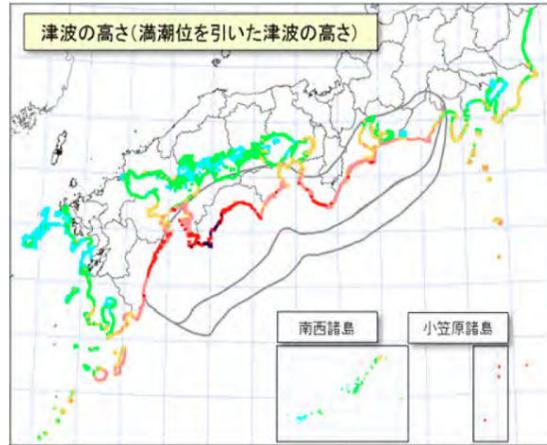
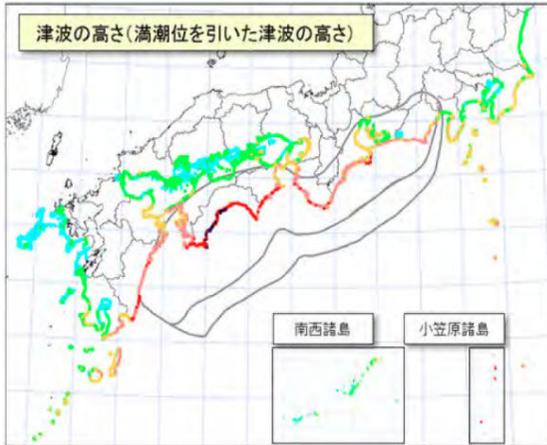
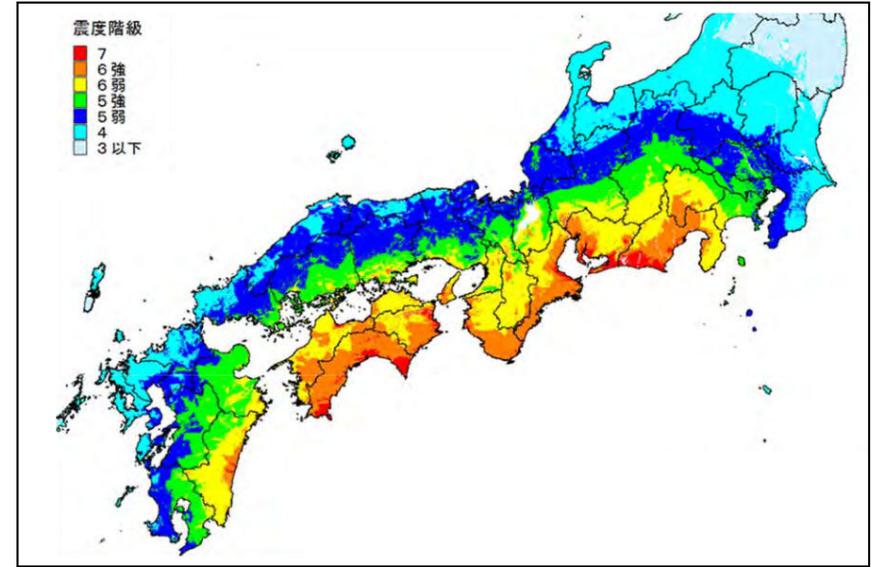
近畿地方が大きく被災するケース

複数の想定されるケースの最大値の分布



四国地方が大きく被災するケース

九州地方が大きく被災するケース



ここで示した想定される津波高と震度分布は、様々なケースが想定されるうちの一例を示したものです。これより高い津波、大きな震度となる場合もあります。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの巨大地震による津波高・震度分布等」(内閣府) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku/pdf/1_1.pdf

2 南海トラフ地震の県内の被害想定

南海トラフ地震の県内の被害想定

凡例

震度階

7

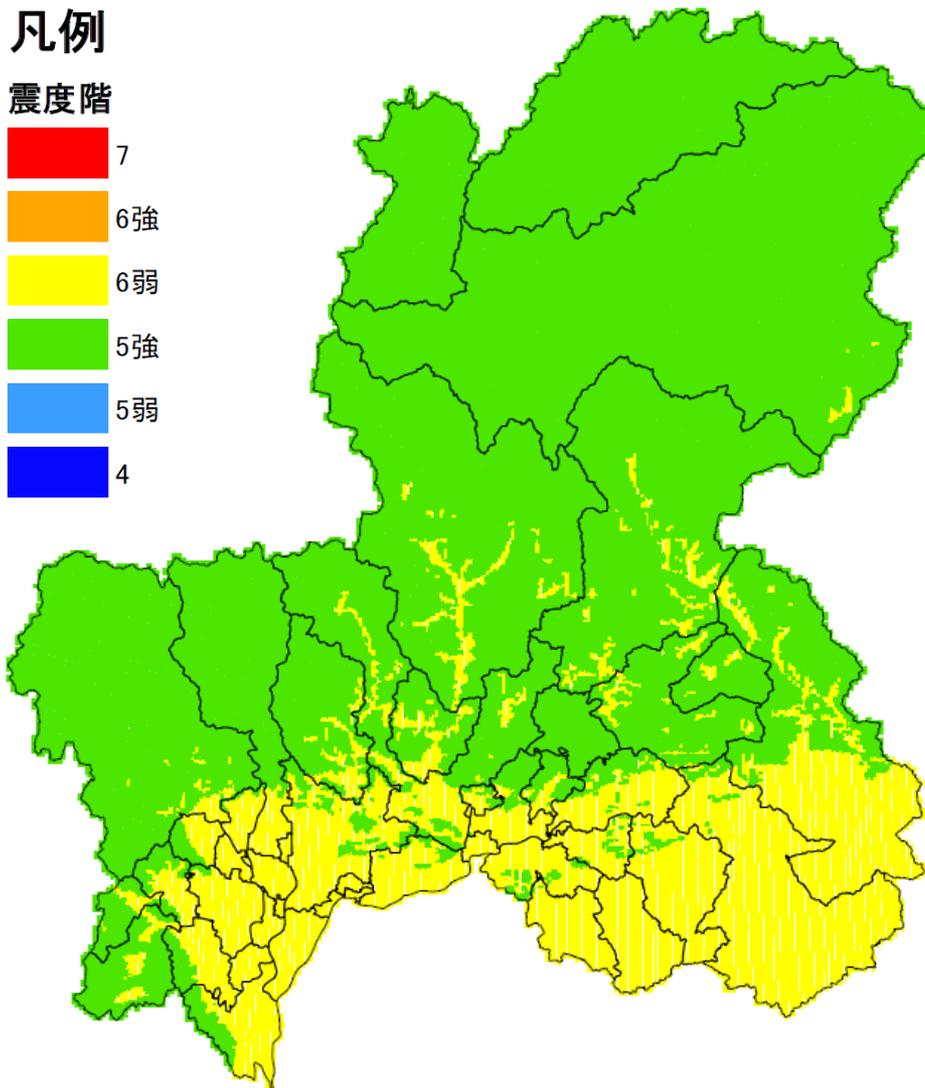
6強

6弱

5強

5弱

4



平成23～24 年度

岐阜県南海トラフの巨大地震等被害
想定調査

【最大震度想定】

県内40市町村 最大震度6弱
(飛騨市、白川村は震度5)

【被害想定】

建物被害(棟)		人的被害(人)		避難者数(人)
全壊	半壊	死者	負傷者	
35,000	100,000	470	13,000	161,000

冬の朝5時を想定の場合

3 各部局の対応状況と今後の取り組み

危機管理部

○情報収集・連絡体制の確認

- ・21名体制で、国からの情報収集及び庁内各部局、県事務所、市町村、消防本部、指定地方公共機関等関係機関への連絡を実施
- ・自衛隊等支援部隊との連絡体制を確認

危機管理部

○所管する防災上重要な施設等の点検

- ・防災交流センター(県庁舎の災害対策本部機能がマヒした場合のバックアップ施設:岐阜市)

○県広域防災拠点の点検、連絡体制の確認を関係各部及び市町村に依頼

- <県>
- ・岐阜メモリアルセンター(清流の国推進部)・県立看護学校(健康福祉部)
 - ・ソフトピアジャパン(商工労働部) ・国際たくみアカデミー(商工労働部)
 - ・セラミックパークMINO(商工労働部) ・飛騨エアパーク(農政部)
 - ・下呂総合庁舎(総務部)
- <市>
- ・岐阜ファミリーパーク(岐阜市) ・浅中公園総合グラウンド(大垣市)
 - ・中池公園(関市) ・ふれあいパーク・緑の丘(可児市)
 - ・郡上市合併記念公園(郡上市) ・多治見市運動公園(多治見市)
 - ・まきがね公園(恵那市) ・飛騨高山ビックアリーナ(高山市)

危機管理部

○大規模地震発生後の災害応急対策の確認

- ・災害対応職員の動員体制の確認
- ・備蓄物資、資機材の確認
- ・防災交流センター、県庁、無線中継所の防災無線用発電機燃料の残油量確認
- ・防災相互通信用携帯無線機の充電
- ・東海総合通信局へ衛星携帯電話等貸出機器の保有状況の確認

知事直轄

○県民への情報発信

- ・ 県民等への情報発信のため、危機管理部と連携し、状況に応じた、各報道機関への情報提供

総務部

○所管する防災上重要な施設の点検等

- 本庁舎(災对本部)、各総合庁舎(災対支部)の非常用設備の点検、避難経路の確保

○大規模地震発生後の災害応急対策の確認

- 職員派遣要請に備えた体制の確認
- 備蓄物資、資機材の確認

清流の国推進部

- 県災害時多言語支援センター設置に向けた準備
 - ・県災害時多言語支援センター(県国際交流センター内)の設置に備え、情報収集
 - ・県国際交流センター(岐阜市)に対し設置準備を行うよう連絡
- 所管する防災上重要な施設等の点検及び対応職員の確認
 - ・岐阜メモリアルセンター(県広域防災拠点:岐阜市)における情報収集及び利用者への情報提供を実施
 - ・岐阜情報SHWの警戒監視・定時連絡体制への移行

環境生活部

○情報収集・連絡体制の確認

- ・所管施設、災害時応援協定締結機関等との連絡体制の確認

○大規模地震発生後の災害応急対策の確認

- ・災害対応職員の動員体制の確認
- ・県民の利用する施設の避難誘導方法等の確認

○その他

- ・県有財産(所蔵品等)の被害防止対策の確認

健康福祉部

○情報収集・連絡体制の確認

- 所管施設(医療施設・社会福祉施設等)との連絡体制を確認
- 災害時応援協定締結機関との連絡体制を確認
- 医療・福祉分野の支援チーム派遣に係る関係機関との連絡体制を確認

○所管する防災上重要な施設等の点検

- 災害拠点病院(高度な診療機能を有し、地域における災害医療活動の中心的役割を担う施設:12箇所)
- 県立下呂温泉病院(下呂市)
- SCU(広域医療搬送拠点臨時医療施設:2箇所)
- 県立看護大学(県広域防災拠点:羽島市)

健康福祉部

- 大規模地震発生後の災害応急対策の確認
 - ・災害時応援協定に基づく各種支援活動体制の確認
 - ・医療・福祉分野の支援チーム派遣体制の確認

商工労働部

○関係機関との連絡体制の確認

- ・災害時応援協定締結機関との連絡体制を確認

○所管する防災上重要な施設及び県民が利用する施設等

において地震への備えの再確認を徹底

- ・ソフトピアジャパン(大垣市)、国際たくみアカデミー(美濃加茂市)、セラミックパークMINO(多治見市) など

観光国際部

- 所管施設・関係機関との連絡体制の確認
- 大規模地震発生後の災害応急対策の確認
 - ・災害対応職員の動員体制の確認
 - ・県民が利用する施設の避難誘導方法等の確認

農政部

○関係機関との連絡体制の確認

- ・食料供給体制確認
- ・漁船による物資の運搬体制確認
- ・工事現場連絡体制確認
- ・主要農業用施設点検連絡体制確認
- ・ため池点検連絡体制確認

○大規模地震発生後の災害応急対策の確認

- ・災害対応職員の動員体制の確認

○所管する防災上重要な施設等の点検

- ・飛騨エアパーク

林政部

○関係機関との連絡体制等の確認

- ・地震が発生した場合の緊急連絡先の確認
- ・応急復旧用木材供給体制の確認
- ・災害時の応援協定体制の確認

○安全確保の指示

- ・工事施工中の現場における安全確保の指示
- ・森林文化アカデミー、森林研究所、ぎふ木遊館における安全確保の指示

県土整備部

- 関係機関との情報共有
 - ・部内各課、土木事務所への情報提供
 - ・災害応援協定締結機関への情報提供・協力体制の確認
- 災害時応急対策用資機材の在庫確認・動作確認
- 施工中現場の状況整理
 - ・工程上、地震の影響を受けやすい現場の作業状況を整理
- 管理車への燃料確保
- 崩落等の危険が予想される法面箇所、橋梁等における通行規制等の検討

都市建築部

○関係機関との情報共有

- ・部内各課、施設管理委託業者への情報提供
（各県営都市公園指定管理者、県住宅供給公社、
岐阜県浄水事業公社 他）
- ・災害時応援協定締結機関への情報提供・協力体制の確認
- ・公共交通機関の運行状況等について情報収集

○工事施工中現場の安全確認

○水道事務所における、緊急貯水に備えた事前確認

○大規模地震発生後の災害応急対策の確認

- ・被災建築物応急危険度判定士等の派遣体制の確認

出納事務局

○情報収集・連絡体制の確認

- ・局内職員への周知及び非常時の連絡体制の確認を実施
- ・指定金融機関との連絡体制の確認を実施
- ・総合財務会計システム運用ベンダーとの連絡体制の確認を実施
- ・指定金融機関を通じ、指定代理金融機関等、県内支店の被災状況等を把握する連絡体制の確認

○大規模地震発生後の災害応急対策の確認

- ・災害対応職員の動員体制の確認
- ・総合財務会計システム障害発生時の初動体制の確認
- ・大規模災害発生時における会計事務処理体制の確認

教育委員会

○関係機関への連絡

- ・教育委員会本庁各課、各教育事務所、県立学校への連絡を実施
- ・市町村教育委員会への情報提供を実施

○情報収集・連絡体制の確認

- ・児童生徒及び教職員の安否確認方法の確認
- ・「災害時等緊急情報伝達計画」にもとづく連絡体制の確認

教育委員会

- 所管する防災上重要な施設等の点検
 - ・学校の施設及び設備等の安全点検
 - ・避難経路・避難場所の点検、避難行動の確認
- 大規模地震発生後の災害応急対策の確認
 - ・校内体制・避難所協力体制、備品や備蓄の確認

県警本部

○情報収集体制の確立

○関係機関との情報共有

議会事務局

○危機管理部からの発表情報の伝達

- 全議員へのメールおよびFAXにより、情報を伝達

○議員の安否状況を把握する方法の確認

- 議員は、議長(議会事務局)に報告するよう周知

○議会棟内の避難経路等の確認

- 地震が発生した場合に、議会棟内にいる者に対し、直ちに安全な場所に避難誘導できるよう、避難経路を確認
- 議会棟内の安全措置(物品落下防止措置、火災発生予防措置等)を実施

4 県・市町村への指示と 県民への呼びかけ

県・市町村への指示

- 今後一週間程度、平時よりも後発地震の発生する可能性が高まっている。
- 県内においては、南海トラフ地震防災対策推進地域に39市町村が指定されており、決して他人事ではない。
- 県が出した「南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応指針」にて初動対応、住民避難や避難所の開設について、対応の流れを再確認されたい。
- そのうえで、地震発生に備え、情報収集・連絡体制の確認や所管する施設の点検など、必要な防災対策を実施すること。
- 住民の皆さんへの適時適切な情報発信を行うこと。
- 仮に、本県に被害がない場合であっても、他県で大きな被害が発生する場合は考えられるため、速やかに支援体制がとれるようにすること。

県民への呼びかけ

- 今後一週間程度、平時よりも後発地震の発生する可能性が高まっている。
- 県及び県内の関係市町村においては、情報収集連絡体制の確認や、所管する施設の点検など、地震の発生に備え、必要な防災対策を実施している。
- 地震の発生に備え、家具の固定、避難場所・経路の確認、家族の方々との安否確認手段の取り決め、家庭における備蓄の確認など、日頃から行っている地震への備えを、改めて確認してください。
- テレビやラジオの報道や、県、市町村の広報に十分注意し、デマなどに惑わされることなく、冷静に行動をしていただくようお願いいたします。